

コロナ禍での会員支援 第二弾

都道府県社団へ「エコー」貸与 講習会促進等の支援金も

日整理事会(オンライン)

新型コロナウイルス感染者数の高止まりが続いている1月21日(木)、日整はオンライン会議による令和2年度3回目の理事会を開催した。写真。日本柔整会館、理事・監事の所属都道府県事務所など20拠点から役員21名全員が参加し、安定した通信環境のもとスムーズに進行した。主な提案事項として、コロナ禍での会員支援の第二弾となる「超音波観察装置(以下、エコー観察装置)の都道府県社団への貸与」と、その普及啓発を図る講習会等の促進および会員の負担軽減を目的とする「都道府県社団への支援金」について審議した。熱心な質疑応答の結果、満場一致で決定した。



日整

トピック

発行
公益社団法人
日本柔道整復師会
発行人 工藤鉄男
編集人 富永敬二

究極の目的

日整は、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底するため、昨年9月24日(木)の理事会か

療養費に特別算定目指す

らオンライン会議ツール「Zoom」を導入し、今回で3回目となる。都道府県社団へ貸与するエコー観察装置は、会員への普及啓発と、その取り扱い技術の向上を図ることを目的としている。

3団体が協力

この遠大な計画は日整が中心となり、日本柔道整復接骨医学会、全国柔道整復師学校協会、柔道整復試験財団の3団体が協力する。骨折や脱臼などのエコー検査を認定項目とし、究極の目的は、将来的に柔道整復療養費の項目の中に、認定柔道整復師特別算定として組み入れることを目指すためである。

日整が実施している骨折や脱臼の整復技術の向上を図る「匠の技伝承」プロジェクトは、日整水準の確立と指導者養成を10年スパンで行う事業である。この講習会におい

てもエコー特別講座が予定されている。

柔道整復施術の向上を図るうえでエコー観察装置による指標は欠かせないものとなる。使用に際しては、機器の取り扱いと有効利用の講習とともに法令を遵守して使用することが求められる。すべては「患者安全」「医療安全」の観点からの取り扱いとなる。

目的達成には2万件の使用者が必要となるため、日整会員のすべての施術所に設置協力を求めている方針である。これらを考慮し、都道府県社団のエコー講習会等の促進と、会員の負担軽減を図るため、会員支援の第二弾として支援金を支給する。第一弾は緊急支援として会員施術所に除菌水やマスクを迅速に配布するなど様々な支援を行ってきた。今後も会員を守るための支援活動を継続的に実施していく。